

社会福祉法人基督教児童福祉会愛隣園

2021年度 事業報告書

2021年度事業につき、その概要を以下のとおりご報告致します。

- [1] 2021年度も新型コロナウイルスの感染拡大を抑制する観点から、理事会等を状況に応じて決議の省略による書面開催と対面開催及びリモート開催を実施し、通信により意見を交わし慎重に検討しながら議案の議決を行い、法人組織の強化と経営の透明性を図り、地域と利用者のニーズに対応した法人運営を効率的・効果的に行いました。
苦情解決委員会の外部起用による中立な第三者委員を活用し、利用者からの苦情及びニーズを書面で報告しながら適正に把握することに努め、問題解決に向けて取り組みました。
- [2] 当期の事業運営につきましては、児童福祉事業は児童養護施設愛隣園（定員34名）及び、地域小規模児童養護施設の男子寮と女子寮（各定員6名）を運営し、2021年度から自立支援員の職員配置により児童のきめ細やかな支援が可能となりました。
2021年度は、将来に向けた新規事業の資金作りや車輛購入計画等により、施設経営の健全化を図ることが出来ました。
県補助事業による被虐待児等地域療育支援・連携体制構築補助事業（こころサポート）を継続して実施し、担当職員2名（療育支援コーディネーター、心理担当）を配置し、要保護児童の療育支援と里親への支援を行うことが出来ました。
県補助金を受けて、防犯管理の強化に向けて防犯カメラ等の設置や、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、濃厚接触者や感染者が入院できない場合の隔離室の生活環境を整えることが出来ました。
- [3] 障害福祉サービス事業においてはワークセンター愛の園の定員40名、グループホーム男子寮と女子寮の合計定員9名の運営を行いました。本体施設の提供するサービス事業のうち、就労移行支援事業の利用者1名を実習を通して順調に就労へ繋ぐことが出来ました。また、2020年2月より相談支援事業所じょいまーの運営を行い、相談件数も徐々に増え成果を発揮しているところです。今後も地域と利用者のニーズに沿った事業運営に取り組んでいきます。
2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止を図りながら、継続して事業運営を行い利用者支援に取り組むことが出来ました。
- [4] 今期の総合的な収益（経常増減差額）は38,385,724円の増収となり、財産状況は30,974,927円の増額で登記する純資産の合計額は1,226,515,238円となり、おおむね順調に推移しました。詳細については会計報告で報告致します。
- [5] 2021年度の社会福祉充実残額は発生していない為、社会福祉充実計画は作成してません。

1. 事業運営

事業種別	2021年4月～2022年3月
第1種社会福祉事業	①児童養護施設愛隣園（定員34名） ②地域小規模児童養護施設こひつじの家（定員6名） ③地域小規模児童養護施設ともしびの家（定員6名）
第2種社会福祉事業	①障害福祉サービス事業ワークセンター愛の園（定員40名） ②障害福祉サービス事業共同生活援助グループホーム愛さ（定員5名） ③障害福祉サービス事業共同生活援助グループホーム美さ（定員4名） ④相談支援事業じょいまー

2. 役員・評議員の構成《2022年3月31日現在》

(1) 役員：定数理事6名以上8名以内、監事2名（理事8名、監事2名）現員10名

区分	氏名	資格等	就任年月日	出席（書面）
理事長	山代 寛	地域福祉実情者	2019年 6月14日	1（4回）
理事	根川 清義	地域代表者	1991年10月29日	0（4回）
理事	高里 鈴代	地域福祉実情者	2005年10月29日	1（4回）
理事	島 しづ子	地域福祉実情者	2021年6月11日	1（3回）
理事	仲地 みどり	福祉事業経営識見者	2021年6月11日	1（3回）
理事	金城 正典	地域福祉実情者	2017年6月20日	1（4回）
業務執行理事	仲宗根 岩雄	愛の園施設長	2006年 4月 1日	1（4回）
理事	上江洲 肇	愛隣園施設長	2019年 6月14日	1（4回）
監事	宮里 善博	財務資格者	2017年6月20日	1（4回）
監事	島袋 裕美	福祉事業経営識見者	2016年4月1日	1（4回）

(2) 評議員：定数7名以上10名以内（評議員10名）現員10名

区分	氏名	資格等	就任年月日	出席（書面）
評議員	喜舎場敏子	地域代表者	2005年10月29日	0（1回）
評議員	望月 智	教会関係者	2007年10月29日	0（1回）
評議員	又吉京子	福祉経験者	2009年10月29日	0（1回）
評議員	花城静子	福祉経験者	2010年10月22日	0（1回）
評議員	保良昌徳	学識経験者	2011年10月29日	0（1回）
評議員	比嘉美恵子	福祉経験者	2013年10月29日	0（1回）
評議員	砂川麻世	学識経験者	2015年10月29日	0（1回）
評議員	田場みどり	家族代表	2017年 4月30日	0（1回）
評議員	石川健一	地域代表者	2017年 4月30日	0（1回）
評議員	國吉 富貴子	地域代表者	2021年6月11日	0（0回）

(3) 評議員選任・解任委員会（委員5名）現員5名

区分	氏名	資格等	就任年月日	出席
委員（監事）	島袋裕美	福祉経験者	2017年2月1日	1回
委員（外部）	知花 豊	福祉経験者	2021年6月11日	0回
委員（外部）	島村 聡	学識経験者	2021年6月11日	0回
委員（職員）	金城幸光	養護課長（愛隣園）	2017年2月1日	1回
委員（職員）	桃原 学	支援課長（愛の園）	2017年2月1日	1回

(4) 苦情解決委員会（委員6名）

区分	氏名	資格等	就任年月日	出席（書面）
第三者委員	宮国幸子	福祉経験者	2017年 4月 1日	3回
第三者委員	久高 整	福祉経験者	2019年 4月 1日	3回
苦情解決責任者	仲宗根岩雄	愛の園施設長	2017年 4月 1日	3回
苦情解決責任者	上江洲 肇	愛隣園施設長	2017年 4月 1日	2回
苦情受付担当者	桃原 学	愛の園職員	2017年 4月 1日	2回
苦情受付担当者	金城 幸光	愛隣園職員	2019年 4月 1日	3回

3. 理事会・評議員会及び監事監査及び評議員選任・解任委員会及び外部会計顧問の実施

(1) 理事会の開催

第1回理事会 決議の省略（書面） 2021年5月26日 （水）	第1号議案	就業規則の一部改正の承認
	第2号議案	2020年度事業報告並びに決算の承認
	第3号議案	任期満了に伴う評議員選任・解任委員の選任
	第4号議案	任期満了に伴う評議員候補者推薦
	第5号議案	任期満了に伴う役員候補者推薦
	第6号議案	定時評議員会の召集
	報告	2020年度社会福祉法人及び社会福祉施設指導監査結果の是正・改善状況
第2回理事会 決議の省略（書面） 2021年6月23日 （水）	第1号議案	理事長の選定
	第2号議案	業務執行理事の選定
	第3号議案	じょいまーる運営規程の一部改正の承認
	第4号議案	給与規程の一部改正の承認
	第5号議案	2021年度補正予算の承認
	報告	定款の変更、新役員
第3回理事会 決議の省略（書面） 2021年8月16日 （月）	第1号議案	グループホーム愛さ運営規程の一部改正の承認
	第2号議案	就業規則の一部改正の承認
	第3号議案	給与規程の一部改正の承認
	第4号議案	非常勤職員就業規則の一部改正の承認
	第5号議案	無期転換職員就業規則の一部改正の承認
	報告	理事長及び業務執行理事の職務の執行状況の報告
第4回理事会 決議の省略（書面） 2022年2月13日 （水）	第1号議案	育児・介護休業規程の一部改正の承認
	第2号議案	給与規程の一部改正の承認
	第3号議案	定年後再雇用職員就業規則の一部改正の承認
	第4号議案	非常勤職員就業規則の一部改正の承認
	第5号議案	無期転換職員就業規則の一部改正の承認
	第6号議案	補正予算書の承認の件
報告	職員の任免、非常勤職員時給改正、固定資産の取得及び処分	

第5回理事会 2022年3月22日 (火)	第1号議案	児童養護施設愛隣園運営規程の一部改正の承認
	第2号議案	新規分園施設開園に伴う賃貸借契約の承認の件
	第3号議案	就業規則の一部改正の承認
	第4号議案	定年後再雇用職員就業規則の一部改正の承認
	第5号議案	無期転換職員就業規則の一部改正の承認
	第6号議案	2021年度補正予算の承認の件
	第7号議案	2022年度事業計画の承認の件
	第8号議案	2022年度予算の承認の件
	報告	職員の任免、固定資産の取得及び処分、監査結果の報告

(2) 評議員会の開催

第1回評議員会 決議の省略(書面) 2021年6月11日 (金)	報告事項	2020年度事業報告
	第1号議案	定款の一部変更の承認
	第2号議案	2020年度計算書類等の承認
	第3号議案	任期満了に伴う役員を選任

(3) 監査の実施

監事名	監査実施日	監査項目
島袋裕美 宮里善博	2021年5月18日(火) 書面監査	法人定款第19条の規定に基づき、2020年度事業に係る理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況の調査

(4) 評議員選任・解任委員会の開催

テレビ会議(ズーム) 2021年6月7日 (月)	参加者(役員区分)	目的事項
	島袋裕美(監事)、村上尚子(外部) 金城幸光(職員)、桃原学(職員) 上江洲肇(理事)	第1号議案 任期満了に伴う評議員選任

(5) 外部会計顧問調査の実施

委託先	訪問月日	チェック項目
EY税理士法人	2021年10月12日(火)	前年度会計確認、経理規程との整合性チェック、会計実務指導
	2022年2月10日(木)	2021年4月～2022年1月までの会計確認、経理規程との整合性チェック、会計実務指導

4. 役員研修の状況

実施年月日	研修名	参加者(役員区分)	研修日数	研修内容
2021年8月	九州児童福祉施設職員研究大会(オンライン研修)	島袋 裕美 (監事)	1日	児童福祉施設の社会的役割について新しい社会的養育ビジョンを再認識し、社会的養育推進計画の理解を深める。

5. 資産(土地・建物)等の状況

(1) 自己所有資産の状況

	所在地	地目、構造及び用途	面積(m ²)	取得	担保提供
基本財産 (土地)	宇与那原2943番地	宅地一施設用地	19182.08	S48.2.1	無
	宇与那原2960番地	〃	915.39	S47.8.29	無
	宇与那原2974番の1	〃	1164.96	S48.2.1	無
	宇与那原2969番地	〃	689.49	S47.7.25	無
	宇与那原2959番2	〃	19.10	S58.8.19	無
基本財産 (建物)	宇与那原2943番地	鉄筋コンクリート平屋建一体育館	507.83	S45.3.15	無
	宇与那原2943番地	鉄筋コンクリート3階建一愛の園	817.36	S63.3.31	無
	宇与那原2943,2969番	鉄筋コンクリート平屋建一厨房棟	182.51	S55.6.30	無
	宇与那原2943番の8	軽量鉄骨平屋建一店舗	24.12	H7.12.1	無
	宇与那原2943番地	鉄筋コンクリート4階建一児童宿舍	2595.40	H13.9.18	無
運用財産 (1)土地 (2)建物	宇与那原2943番の7	鉄筋コンクリート平屋建一分別場	70.58	H21.2.17	無
	宇与那原2943番地	鉄筋コンクリート造一苗置場	66.00	S38.7.1	無

(2)借地等の状況

土地	所在地	地目、構造及び用途	面積(m ²)	契約の有無(相手方)
	字与那原浜田原2998-14	井戸敷地	21.44	有(沖縄総合事務局)
建物	非公表	こひつじの家	200	有(神谷光信)
	非公表	ともしびの家	70	有(奥平絹子)
	南風原町字本部434-11	グループホーム愛さ	100	有(浦崎隆子)
	与那原町字東浜86-2	グループホーム美さ	75.14	有(仲里武史)

6. 公益的な地域貢献活動への取組状況

- ① 園庭解放及び電話やメール等により、地域の子育て家庭を対象とした相談支援
- ② 地域住民等へ体育館、グラウンド、マイクロバス等を貸出し、地域福祉及び教育活動を促進
(小中学校クラブ活動、地域のクラブ活動、地域の保育園行事、教会行事等)
- ③ 福祉人材育成活動として、福祉養成学校等の実習生の受入れによる福祉人材の育成
- ④ 児童虐待防止ネットワークへの参画(要保護児童対策地域協議会)
- ⑤ 障害の理解促進の取組みとして地域住民の交流による理解促進(バザー、町内外イベント参加)
- ⑥ 複数法人間連携事業への参画として、連携事業への参画による地域のセーフティーネット構築
(学校、警察、民生委員児童委員、町福祉課、町子育て支援課、町障害福祉課、町社協)
- ⑦ 災害時に備え、地域の災害時一時避難場所として指定し、地域住民と連携した防災体制の構築

7. 管理者会議、苦情解決委員会、その他の委員会の開催

(1) 管理者会議の開催

①管理者会議 2021年4月15日(木)	①任期満了に伴う役員改選の件 ②監事監査の件 ③第1回理事会開催の件 ④理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会開催計画の件
②管理者会議 2021年5月11日(火)	①任期満了に伴う役員改選の件 ②監事監査の件 ③第1回理事会開催の件 ④評議員選任・解任委員会開催の件 ⑤評議員会開催の件 ⑦理事会開催の件
③管理者会議 2021年6月1日(火)	①評議員選任・解任委員会開催の件 ②評議員会開催の件 ③第2回理事会開催の件
④管理者会議 2021年7月7日(火)	①第3回理事会開催の件 ②2021年度から2022年度事業計画の件 ③愛隣園の定員の件 ④人事の件
⑤管理者会議 2021年8月4日(水)	①第3回理事会開催の件 ②2021年度から2022年度事業計画の件 ③人事の件
⑥管理者会議 2021年9月1日(水)	①2021年度から2022年度事業計画の件 ②人事の件 ③2021年度沖縄県の最低賃金の件
⑦管理者会議 2021年10月6日(水)	①2021年度から2022年度事業計画の件 ②人事の件 ③パートタイム職員の時給改正の件 ④育児・介護休業法改正の件 ⑤年金制度改正法の件
⑧管理者会議 2021年11月10日(水)	①人事の件 ②非常勤職員の時給改正の件 ③育児・介護休業法改正の件 ④改正高年齢者雇用安定法の件 ⑤クリスマス礼拝・祝会の件
⑨管理者会議 2021年12月1日(水)	①人事の件 ②慶弔金内規の一部改正の件 ③表彰式の件 ④第4～5回理事会開催の件

<p>⑩管理者会議 2022年1月5日(水)</p>	<p>①2022年度事業計画の件 ②第4回理事会開催の件 ③第5回理事会開催の件 ④道路交通法施行規則の改正による安全運転管理者の追加業務の義務化の件</p>
<p>⑪管理者会議 2022年2月2日(水)</p>	<p>①第4回理事会開催の件 ②第5回理事会開催の件 ③監事監査の実施の件 ④2022年度第1回理事会開催の件 ⑤定時評議員会開催の件 ⑥道路交通法施行規則の改正による安全運転管理者の追加業務の義務化の件</p>
<p>⑬管理者会議 2022年3月8日(火)</p>	<p>①2022年度人事の件 ②退職辞令交付式及び感謝状贈呈式並びに感謝状伝達式の件 ③2022年度辞令交付式の件 ④第5回理事会開催の件 ⑤監事監査の実施の件 ⑥2022年度第1回理事会開催の件 ⑦定時評議員会開催の件 ⑧2022年度第1回理事会開催の件 ⑨2021年度指導監査の結果の件 ⑩道路交通法施行規則の改正による安全運転管理者の追加業務の義務化の件</p>

(2) 苦情解決委員会の開催

<p>①苦情解決委員会 2021年10月27日(水)</p>	<p>①2021年9月～10月までの苦情受付状況の報告 ②苦情受付報告に対する質問・意見・助言等 ③その他(次回苦情解決委員会の開催日について)</p>
<p>②苦情解決委員会 2021年11月10日(水)</p>	<p>①2021年10月～11月までの苦情受付状況の報告 ②苦情受付報告に対する質問・意見・助言等 ③その他(次回苦情解決委員会の開催日について)</p>
<p>③苦情解決委員会 2021年12月8日(水)</p>	<p>①2021年11月～12月までの苦情受付状況の報告 ②苦情受付報告に対する質問・意見・助言等 ③その他(次回苦情解決委員会の開催日について)</p>

2021年度児童養護施設 愛隣園 事業実績報告書

1. 「主な取り組み事項」

(1) 職員体制等について

組織力を高め、事業運営を円滑に推進していくため、各ホームに主任を1名配置し、それぞれ所属ホームを統括することを継続しました。

ホーム職員の意見吸い上げ、管理者の方針などを職員に周知していくことがスムーズになっており、全体としても定着しています。

定例の養護課会議や必要に応じて開催する臨時会議を通して、全体会議での協議事項や迅速に対応すべき事柄などについても適切に対応できるよう継続しました。主任がホームの意見をまとめることにより、ホーム運営、児童への支援、チームケアなどが昨年度同様にスムーズに行えるようになっていきます。また、職員配置基準の弾力的運用に伴う採用拡大により、本体5名の担当者にパート職員1名を活用した1ホーム6名体制を整え、夜間の2名体制や個別ケアを継続しました。特に個別対応が必要な児童については、事務所職員による個別対応を行い、より丁寧に児童の発達に合わせた余暇時間の過ごし方を意識して取り組んできました。また、地域の児童デイの活用を行い、発達障害を抱える児童の支援について充実できるよう取り組みました。

また、今年度は将来のケア単位の小規模化、職員の定着率を向上させる目的で4名の非正規職員を正規登用することができました。児童らの支援の連続性、地域分散化の人材確保をするためにも、予算との兼ね合いを勘案しながら、継続して職員の正規登用を検討していきたいと思えます。

来年度へ向けて、新たな地域小規模児童養護施設の開設のための人材確保を行い、3名の指導員、保育士採用（非常勤）2名の夜勤専門員の採用により人員を整備しましたが、厚労省が示す地域小規模児童養護施設の新たな職員加配について1名増員できるため、2名の指導員、保育士の募集を継続しています。職員採用については、平等且つ適切に対応するため、「職員採用マニュアル」を活用することになっており、非常勤も含め初任者研修を継続しました。従来の関係法令、法人理念等に加え「児童養護施設運営ハンドブック」を活用した具体的な支援について初任者研修を実施することにより、施設内暴力の防止や児童とその家族の理解など、人材育成を充実できるよう取り組みを継続しました。また、今年度はコロナ禍にあつて各種研修の中止が相次ぐ中、オンデマンド研修となった基幹的職員研修、九州児童養護施設職員研究大会、沖縄県児童養護研究大会などに多数の職員が参加することができ学びを深めました。

今年度は、沖縄県版権利擁護ガイドライン「より良い支援の実現に向けて」の研修内容が各施設にDVDが配布されることになり、定期的に権利擁護の研修を独自に実施する体制が整いました。全職員を対象に権利擁護の研修を充実させていきたいと思います。また、社会福祉援助技術実習担当者の研修を一名の職員が受講することができ、再来年度からは社会福祉援助技術実習受け入れの体制が整う予定です。人材育成、人材確保に向けて実習体制を整えていきたいと思います。

卒園した児童のアフターケアや卒園を前にした児童へのリービングケアを行う「自立支援担当職員」の配置により、進学、就職を視野に入れた面談やアンケートなどによる具体的な取り組みができました。また、地域の商工会議所と連携し、就労体験などを実施することにより、児童らの社会生活に対するイメージづくりや就労体験を通じた経験が自信につながるケースも見られました。卒園した児童らの支援についても各関係機関との連携を強化しながら、児童の卒園後も必要に応じて切れ目のない支援体制構築を目指し取り組んでいるところです。また、地域の子どもたちを見守るための集まりにも参加し、地域の子どもたちへ向けても各関係機関と連携して取り組める体制づくりを目指していきます。

今年度も苦情解決委員会を月に1回開催することを目標に、第三者委員と苦情受付担当者、苦情解決責任者を交えた話し合いにて利用者の苦情や要望について検討する機会を設けましたが、コロナの影響により開催回数が減少しました。しかし、利用者より出された意見、要望はすべて報告することができ、適切なアドバイスもいただきながら取り組んできました。継続して、第三者委員の利用者の状況把握や具体的な苦情や要望についてアドバイスをいただき、より良い意見の吸い上げ方法の構築を目指して継続して取り組んでいきたいと思います。

今年度も、見回り簿のチェック箇所の明記で戸締りの確認の強化、児童へのアンケート実施、小集団、個人面談の性教育の実施、心理士による性教育の実施、SV研修の実施、「児童間性暴力“0”へのロードマップモデル事業」(神戸児童間暴力研究会主催)参加による、児童間暴力の予防とアセスメントについてモデル開発の実施などに取り組んでいます。

(2) ホーム体制について

今年度も、本体34名定員の2ホーム体制としました。1ホーム6名の職員を配置し(内1名は平日の夕方から夜間までのパート)、幼児から高校生までの縦割で1ホーム定員は17名としました。また、担当制を継続することで、児童の個別的な支援の充実に努めるとともに、夕方17時から夜間

22時までの時間帯を職員2名体制とし、幼児の入浴、食事、寝かしつけの支援や年少児、高齢児に対しても丁寧に対応できるよう継続しました。夜間2名体制だと、ゆったりと子ども達に関わることができ、問題行動に対する迅速な対応、夜間の見廻り等の対応が継続できています。

担当者だけのローテーション勤務では2名体制を維持することは困難であり、補助員の活用によって体制を維持してきました。しかし、休日等の2名体制を行うには勤務状況が厳しくなり、何かあった場合の代替職員等も含め、継続して体制を整えていく必要がありますが、事務所職員のヘルプでこなしている状況です。また、様々な障害を抱える児童の増加も、2名体制でもきめ細かな対応が難しい部分もあり、個別に愛着を形成するためにもケア単位の小規模化を図ることが大きな課題となっています。しかし、小規模化にも距離の近さや指導的になり過ぎないように配慮が必要であり、職員のバーンアウト、児童同士、職員と児童の相性からくる課題など、丁寧に議論を深めながら取り組む必要性やそれを踏まえながら国が示す「社会的養育推進計画」の策定に伴い、児童への丁寧な支援ができるよう職員の勤務体制も含めた総合的な整備が必要不可欠となっています。

来年度から新たな地域小規模児童養護施設の開設へ向け、主管課と相談しながら主任会議を中心にワーキングチームで話し合いを重ねてきました。現校区内にて物件を見つけることができ、対象児童の選定、地域小規模児童養護施設の名称など子どもたちの意見も聞きながら決定していききました。また、ホーム異動についても児童集会などで説明を行い、異動する児童らが前向きに生活をスタートできるよう配慮しました。

(3) 幼児の集団支援について

今年度も、「幼な子の家」の対象児童がいなかったため、担当する専任担当者を配置しませんでした。しかし、緊急一時保護児童の対応や個別対応の充実を目的に、児童指導員（非常勤）を増員し、一時保護や個別対応ができる体制を継続しました。幼児の集団支援については、地域の一員として児童が育まれるよう、二重措置が困難である現状の改善について継続して声をあげていきます。

(4) コロナウイルス対応について

コロナウイルス蔓延防止及び対応について、厚労省、保健所からのマニュアルを参考に、本庁所管課に確認しながら当園でも対応マニュアルを作成しました。また、補助金の活用によりマスク、消毒液を切らさないよう早めに準備を行うことができ、次亜塩素酸水（電解水）生成装置の配備、隔離用ホームの整

備、除湿器の購入、リモート授業や研修に備えた機器類を購入することができました。また、職員研修がテレワークでも行えるよう規定の整備等も継続しました。

緊急事態宣言発令中は、児童らの外出、帰省、面会、外部行事への参加、来客制限などを行い、児童の保護者、職員に対して不要外出の徹底協力をお願いし（保護者には4回文書を発送）、可能な限り人との接触を減らすよう取り組んできました。しかし、児童らの外出制限や親との面会、帰省を制限することでストレスも高まり、児童同士でのトラブルも絶えない状況であることから、去年同様、園児を対象に体育館にて時間制限を設けて解放するなどの措置をとって対応し、児童のストレスが発散できたことは一定の効果を感じました。また、相次いで行事や招待も中止となる中、園の一大行事であるキャンプなどを子どもたちの意見を取り入れながら小学生班は去年同様に園内キャンプを実施することができました。高齢児女子については、自分たちで安全なキャンプ地をリサーチし、安全面を最大限配慮した中で、日程変更、短縮にてキャンプを行うことができました。職員も相次ぐ行事等の中止に頭を抱えることが多かったですが、今年度も全員のアイディアに救われた一年でした。

また、家族にも面会、帰省を制限する協力依頼の文書などを発送しながら、子どもとの関係性が切れないよう手紙を書いたり、電話連絡の関わりを促したり、様々な工夫と対応を行いました。

当園は、児童らが生活を営む入所施設であることから、職員に休暇を与えることさえ難しい状況であり、小さな子ども抱える職員の処遇、勤務時間軽減措置などについて大きな課題となっています。福祉施設における職員に対しての慰労金は、児童養護施設は対象外となっていました。厚労省からの処遇改善の補助金にて、給与改善手当（施設長を除く）を支給することができました。

（5）第三者評価受審

今年度は、社会福祉士会による第三者評価を受審しました。職員の個別の面談からそれぞれの職員の目標を設定するなど、職員育成の課題や他部署の職員も個々の児童の状況や書類が把握できるシステム構築などの課題が提示されました。長年地域に支えられながら、支援の積み重ね、チームケアや個別の支援については評価をいただき、改めて地域の皆様に支えられている施設ということを認識できる機会にもなりました。受審結果については、ホームページでも公表しました。

2. ケア単位の小規模化について

地域小規模児童養護施設「こひつじの家」（定員6名 男子棟）と「ともしびの家」（定員6名 女子棟）を継続して運営し、個別に関われることで個々

の児童の状況に合わせて支援できており、児童らも自分の居場所として概ね順調に推移しています。職員配置を4名とし、ホームを総括する主任を1名ずつ配置しています。来年度からは、現行にプラス1名の加配が厚労省より示されており、その配置のため職員募集を継続しています。

国が推し進めるケア単位の小規模化に伴う当園の「家庭的養護推進計画」を沖縄県、厚労省へ提出してあります。厚労省より新たに「社会的養育推進計画策定」が示され、県でも「社会的養育推進計画策定に係る検討会」がスタートされ、来年度が見直しとなっています。支援の小規模化に伴う、職員の確保、勤務体制の軽減、ハード面整備に伴う財源確保はとても大きな課題となっています。今年度も、ケア単位の小規模化の具体的な方法、体制について、職員で勉強会を実施しましたが、国の方針として6名定員を4名定員への引き下げた場合の職員4名体制を保证する（配置基準一対一）取り組みが打ち出されており、今後も厚労省の示す方針や県の予算の状況を鑑み、沖縄県全体の調整をしながら、推進計画が推し進められる予定となっています。

また、来年度開設予定の新たな地域小規模児童養護施設「あかりの家」のスタートについて、対象児童の選定、職員の人員配置も決定し、確保できた物件の準備を進めています。新年度の新たな地域小規模児童養護施設へのスタートを目指し、新年度は既存の空ホームを活用して生活体験をしながら子どもたちが生活の準備に参画できる配慮をしていきたいと思えます。

3.事業の実施状況

養護目標・・・自主性を育む

《重点努力目標》

- ・褒める場面を増やし、自己肯定感を高める
- ・日々の生活の中で感謝と思いやりの気持ちを育てる。
- ・自ら考え行動できるような言葉かけを行う。
(指示的な言葉かけだけにならない)
- ・気持ち良いあいさつを通して社会性を育む。

①各項目の養護反省（全体）

(1) 基本的生活習慣

就寝起床時間や朝の当番・お手伝い、テレビの視聴時間などについて子どもたちと話し合いながら、基本時間を設定し、各ホームや児童集会などで確認し合い実施しました。

幼児や年少児に対しては、いつでも気持ちよい就寝、起床ができるように絵本の読み聞かせや起床の声かけを丁寧に行い、早寝早起きを習慣づけるように支援しました。また、洗面、食事等の支援も児童の発達状況に合わせて行い、

部屋の清掃等きれいな生活空間を提供する中で、気持ちの良い生活体験を通して自立を支援しました。特に高齢児については、できる限り個室が利用できるよう配慮し、個々の課題に丁寧に取り組めるよう継続して支援を行いました。

洗たくや自室の清掃等をそれぞれの発達段階に応じて指導し、労作や日常のお手伝いの中で勤労意欲を向上させるように努めたところ、楽しく労作活動等ができることが定着しています。

金銭管理については、小遣い帳をできるだけ自分で記帳させ、いつでも閲覧できるように配慮し、自分で金銭管理ができるようにしました。その結果、お金の使い方を工夫する児童も多くなり、小遣いを貯めて欲しい物を購入するなど、目標に向かって貯金できる児童も増えてきました。また、高校生が社会体験も含めたアルバイトをし、卒園後の準備金として貯蓄することができました。アルバイトによる社会体験により、対人関係において社会性が乏しい児童も成長が見られ、課題とされるコミュニケーション能力が向上することができました。

虐待などで心に傷を抱え、自己肯定感が低い児童が多い中、併せて知的障害や発達障害を抱える児童が増加しています。しかし、障害や虐待によるトラウマの特性上、日常生活や学校生活で注意を受けることが多く、児童らの自己肯定感を高め、児童本人の生きる力や様々な意欲に繋がるような支援をより充実させる課題に対し、それぞれの児童の得意な分野において部活動やクラブ活動を奨励し、個別に作業時間や創作活動を設定して認められ体験を増やしてきました。また、個別支援を行い、障害を抱える児童の支援の充実に取り組み、児童デイの活用などにより個別に発達支援ができるようになりました。継続して取り組んでいきたいと思ひます。

また、どのような職員体制、生活単位がそのような児童にとって生活の質と支援の向上に繋がるのか、継続して考えていきたいと思ひます。

(2) 余暇活動

コロナの影響もあり、規模の縮小や時期の変更を行い、年齢、発達に応じた横割のプログラムを実施しました。(夏季キャンプ)。特に、今年度は去年度の経験を生かし子どもたちから色々なアイデアが出た中で行事を継続することができたことはとても良かったと思ひます。また、子どもじんぶん学校や他施設訪問など、コロナ禍によって中止となった行事も相次ぎ、招待などもコロナ禍で相次いで中止となりました。しかしながら、今年度もマスクや遊具のご寄贈など、子どもたちの余暇活動を充実できるようなご寄贈が多く、社会の皆様のお温かいお気持ちに救われた一年でした。

学校の部活動やクラブ活動及び地域のサークル活動(サッカー、フットサルクラブ等)への参加を奨励したところ、続けて頑張る児童の自信や自己肯定感

の向上に繋がっています。また、職員も部活動やクラブの父母会へ積極的に参加し、児童が地域の一員として大切にされ、好きな部活動やクラブ活動が継続できるようにサポートしていきます。今年度も、小学生の地域のクラブ活動については職員が父母会として関わることになるため、すべての土日、祝祭日に対応しなければならず、担当職員の勤務負担が増えることが課題となりましたが、今年度も地域の父母の協力のもと、やり通すことができました。

(3) 児童自治会活動

小・中学生は児童集会を持ち、図画、作文、皆勤賞などで賞をもらった児童などに図書券をプレゼントし、意欲を向上させるよう取り組みました。特に愛隣園ニュースやクリスマス祝会プログラム表紙などの絵を児童から募集したところ、積極的に絵に興味を示す児童が増えており、褒められることの中で自信をつける良い機会となっています。

意見箱の活用について児童集会で適宜説明を行い、意見表明や苦情の申し出が活発になるよう話し合いました。また、児童集会で意見記入用紙を配布し、いつでも児童が意見箱を活用できるよう配慮しています。書かれた内容について第三者委員に開示し、苦情解決委員会にて助言などを得ながら児童への回答を行ってきました。意見記入用紙を変更し、第三者委員と児童が面接を行うことやお手紙が欲しいなどの要望が選択できるよう取り組みを継続しています。

中高校生については、部活動やアルバイトでなかなか自治会を活性化できない状況にあるため、小集団や個別の話し合いを増やし、児童の声を吸い上げるようにしてきました。高校生男子は、養護課長を中心に男子会を持ちました。児童らから Wifi 環境の整備について意見が出ていたので、全体の約束事も含め子どもたちが自分の生活の場として認識できるよう継続して話し合い、委員会活動の中に位置づけることで、現場の職員と児童で話し合いができるような自治会を目指していきたいと思ひます。

キャンプは、児童らと話し合いながら、児童らが要望する内容に沿って計画・実施できました。スマートフォンの所持、ネット環境については、外部講師のネットワークに関する研修を高校生向けにリモートで実施することができました。児童らの意見を良いかたちで生活に反映できるよう継続して取り組みを行いたいと思ひます。

また、中高校生の入所も増加しており、入所前に丁寧に施設にあるルールの必要性、権利擁護の取り組み、進路の選択などの説明を行う必要性を強く感じしており、インテーク用のパンフレットを作成、活用し実施する中で、入所前から高校生の意見を吸い上げることができるよう取り組みました。

(4) 性（生）の尊厳

CAP大人ワーク、子どもワーク、「いのちの教室」を実施予定であったが、

コロナ禍でワークは中止となりました。ただし、個別の性教育は継続して行い、性的事故を防げるよう生活場面で性的な課題となっている部分について話し合い、職員の性や人権に対する意識を高め、生活場面での関わり方で職員が意識してよりよい言葉かけができるように取り組みました。また、チェックリストを活用し、施設全体でどこか課題となっているか検証作業を常に現在進行形で検討するようにしています。

これまでの取り組みの中で職員も一緒に性について学ぶ機会となり、生活の場で子どもたちへの適切な支援ができるよう意識付けがなされており、来年度もより良い性（生）の研修を考えていきます。また、研修だけに留まることがないように、職員の意識、技術の向上を目標に今後も取り組みを続けていきます。また、神戸児童間暴力研究会との研究協議によって、当園に沿った児童間暴力予防のためのマニュアルやアセスメントの方法を確立できるよう取り組みも継続していきたいと思えます。

(5) 社会化の促進

学校PTAの役員及び地域PTAの係を輪番制で一ホームが担い、継続してPTA活動に積極的に参加しました。学校PTAにおいては、小学校で特に気になる児童の学年やクラス的环境委員として役員を引き受け、PTAの方々や先生方との連携強化に努めました。

今年度も、コロナ禍にあつて愛隣園福祉バザーが開催できず、地域の方々とボランティア活動を通して関わりが持てなかったのは残念でした。

体育館などの施設を地域の行事やスポーツ活動に開放し、地域の活動に協力してきましたが、コロナ禍で去年度よりは活動回数が減りました。今年度は、コロナ禍にあり、地域の民生委員や小中学校の初任者研修等の見学、施設説明の受け入れが困難な状況でした。

週に1度の礼拝を教会やホームで行い、教会との連携を図り、教会で行われる行事（クリスマス、イースター、キャンプ、土曜クラブ等）への参加もコロナ禍で縮小や中止となってしまいました。、行事の中止にてキリスト教への理解や教会員と児童、職員の交流を深められなかったのが残念でした。

これからも地域との繋がりを大切にし、地域へのボランティア活動や共同のプログラムを通して、児童が地域の一員として成長できるような環境づくりを目指していきます。

(6) 施設機能の強化

施設機能強化推進費を有効に活用し、県内外への専門的な研修へ職員を参加させる予定でしたが、コロナ禍で計画していた研修の中止も相次ぎました。しかし、リモートによる研修も増えてきた為、環境を整備しリモート研修にて職員が希望する研修にも参加することができました。特に県外での研修において

は、児童養護施設がこれから向かう方向性、より複雑化するニーズに対する支援のあり方等、全国的な取り組みや課題などを学ぶ機会となるため、他施設との情報交換の場としても継続して取り組んでいきたいと思ひます。通常、本土研修へは、予算の都合上3名程度の派遣になりますが、リモート開催にて九州児童養護施設職員研修などに多数の職員が受講でき、学ぶ機会を確保できました。

今年度も県の「沖縄県児童養護施設等資質向上支援事業」としてスーパーバイズ研修によるケース検討会・学習会が実施できました。県内で発達障害、非行少年対応の心理士をされている上原秀猛先生をお招きして研修できたことは、現場職員にとっては貴重な研修でした。また、性教育とその対応について学びを継続している遠藤先生のSVも含めた研修も継続することができ、職員をエンパワメントできたことは大変有難いと思ひます。コロナ禍でも、創意工夫により継続できた研修もあるので、より充実できるよう考えていきたいと思ひます。

今後も継続して研修を実施し、ケースの見立てのみならず、自立支援計画の策定と活用まで児童の支援に生かせるような研修の計画を立てていきたいと思ひます。

また、コロナ禍で回数は減りましたが、「こころサポート事業」の嘱託医である竹下先生をSVに迎え、個々のケースについてケース検討会を重ね、支援の方法について学習を続けてきました。特に、精神疾患を抱える母親の増加やDVによる親の心の傷など、家族への治療的介入や関わり方について学びを継続できました。竹下先生の嘱託医としての取り組みが今年度までとなることから、主管課の指示のもと、新たな嘱託医と連携を図り、継続して研修などもできるよう取り組みをしていきたいと思ひます。

基幹的職員研修にも2名が参加し、基幹的職員としての役割が担えるように体制を整えました。処遇改善事業の研修においては、今年度より研修内容が変わり、「地域分散化」「高機能化」へ向けた二つの研修を2名の職員が受講できました。また、この新たな研修の企画に「CAP おきなわ」に協力するかたちで参画し、当園の島袋裕美監事を含む講師の皆様のご協力で実施できたことに感謝したいと思ひます。この研修への参加により、どの職員もリーダーを担えるよう継続して取り組んでいきたいと思ひます。

今年度は、自動車免許取得、進学などの児童はおらず、奨学金制度、貸付制度、後援会からの援助対象はいませんでした。継続して、各児童の希望に沿った進路を選択できるよう各制度の活用、当園の後援会からの支援金制度の整備等をお願いし、児童が夢を持って進学、就職の選択ができる体制を整えて充実させていけたらと思ひます。

リービングケアについても、厚労省からの配置が求められている自立支援担

当職員を活用し、社会に出るために必要な知識、経験ができるよう取り組みを継続させていきたいと思ひます。

(7) ボランティアの活用状況

今年度は、コロナ禍によりボランティア活動の受け入れや活動そのものも難しかったです。

(8) 関係機関との連携

家庭支援専門相談員を中心に、児童相談所、児童の家族に関わる関係機関や病院、保健師等と連携を図りました。ケースによっては、児童相談所とケース検討を行いました。

小・中学校並びに警察署とは、日頃の連携はもちろん、園児の情報交換や地域の子どもたちの状況について話し合うなど、情報の共有に努めました。今後も各関係機関との連携強化や児童への支援の充実に努めていきたいと思ひます。

アフターケアについても、障害者支援センターとの連携や沖縄県自立支援事業所「にじのしずく」など、必要に応じて関係機関と連携して対応してきました。

また、継続して地域の児童デイを活用し、発達障害等を抱える児童にとっては個別に十分な活動ができるようになりました。

(9) 家庭復帰促進と小規模ケア

家庭支援専門相談員を中心に児童相談所や関係機関と連携のもと、親や親族との関わりを密にすることができ、親子交流を継続してきました。特に今年度はコロナ禍とあって、手紙や電話交流など工夫をしながら親子関係を構築してきました。年度途中で家庭復帰になったケースが2ケースでした。家庭復帰したケースについても、児童相談所や地域と連携しながら卒園後の状況把握に努め、必要に応じて支援を継続しています。複雑化する家庭状況もあり、家族の再統合の方法も多岐に渡ってきました。児童の視点に立ちつつ、適切なアセスメントができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

FSWを中心に親との関係づくりを継続する中で、就労や家庭復帰に意欲が見られてきた親も見られてきたので、継続して親や関係機関との連携を強化し、子どもたちの意見も反映しながら、「子どもたちの最善の利益」「家族の再統合」に向けて働きかけていきます。

家庭支援専門相談員による家族等に対する年間の主な取組状況

家庭訪問	関係機関との連携	ケースのモニタリング会議	親への就労支援等	卒園児に対するアフターケア	親との面談(来所)
19回 (9ケース)	28回	32回 (37ケース)	11回 (3ケース)	4ケース	17回

(10) 被虐待児等地域療育支援・体制構築事業(こころサポート事業)の推進と評価

今年度も県内里親、FH(ファミリーホーム)を対象に療育コーディネーター及び心理士による面接、相談支援や各こころサポート事業所との連携により、研修などを企画し、里親、FH向けに発達障害の理解や養育について講師を招いて勉強会を実施しましたが、コロナ禍にあって開催数が減り、里親など外部へのアプローチなども厳しい状況でした。

里親、FH主催の連絡会や行事は可能な限り開催し、里親、FHの現状を把握する中で情報を共有しながら、各種制度についても情報提供を行いました。

コロナ禍で外部と関わりが持てない分、当園の児童を対象に個別面接や個別的な関わりを多く持つようにし、特に個別対応が必要な児童と関わることができました。また、嘱託医のSV研修も可能な限り開催し、貴重なアドバイスや職員のエンパワメントに繋がっています。嘱託医の竹下先生が今年度限りで嘱託を終了することになっていますので、新たな嘱託医との連携を主管課の指示を仰ぎながら構築していきたいと思ひます。

都道府県家庭的養育推進計画の推進に伴い、県内では乳児院における里親のフォスタリング事業もスタートしており、フォスタリング機関との連携を密にし、まだ未受託の里親や、里親会、児童相談所と連携して初任者研修やレスパイトケアなど具体的な取り組みについて検討していきたいと思ひます。

こころサポート事業による主な年間の取組状況

里子への児童面接(相談員)	里子への心理面接(心理士)	里親宅訪問	連絡会・研修会企画実施	嘱託医によるケース検討会・支援者面接	里親との面接及び電話相談等
0回 (26回)	2回 (110回)	0回	連絡会13回 研修企画1回	検討会(3回4ケース)	27回 (3ケース)

()内は当園児童の対応回数

(11) その他
 人材育成について
 実習生の受け入れ状況

	学校名	人数	期間
保育 実習	沖縄福祉保育専門学校	2名	R4年 1/6～1/18 (10日間)
		1名	R4年 2/1～2/11 (10日間)
		1名	R4年 2/7～2/17 (10日間)
		1名	R4年 2/14～2/24 (10日間)
	沖縄女子短期大学	2名	R3年 10/4～10/9 (5日間)
合計	2校	7名	

今年度の実習もコロナ禍により短縮、中止となる学校が相次ぎ、受け入れが困難な時期もありましたが、安全面に配慮しながら養成校からの要望に合わせて可能な限り受け入れ体制を整えてきました。

② 児童の月別在籍状況(各月初日現在)

性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均在籍数
男	16	16	16	17	17	17	17	18	18	18	18	18	17
女	19	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
計	35	35	35	35	35	35	35	36	36	36	36	36	35

(地域小規模児童養護施設「こひつじの家」男子6名、「ともしびの家」女子6名含む)

③ 児童の養護原因別状況(2022年3月1日現在)

養護原因			男	女	計
①	家出	父	0	0	0
		母	0	0	0
		父・母	0	0	0
②	死亡	父	0	0	0
		母	0	0	0
		父・母	0	0	0
③	離婚	0	0	0	
④	傷病 (精神障害者を除く)	父	0	0	0
		母	0	0	0
		父・母	0	0	0
⑤	家庭環境	虐待			
		身体的虐待	5	3	8
		心理的虐待	1	2	3
		性的虐待	0	2	2
	ネグレクト	5	6	11	
その他	就労1 薬物1	経済的3 精神疾患4	6	5	11
⑥	その他		1	0	1
総計			18	18	36

④ 児童の学年別状況(2022年3月1日現在)

学年	小学生							中学校				高等学校				幼稚園児	保育園児	高等特別支援学校	能力開発校	その他	合計
	一年	二年	三年	四年	五年	六年	小計	一年	二年	三年	小計	一年	二年	三年	小計						
男	0	1	1	0	2	3	7	1	4	1	6	2	2	1	5	0	0	0	0	0	18
女	1	1	1	3	1	2	9	0	1	2	3	2	1	0	3	1	0	1	0	1	18
計	1	2	2	3	3	5	16	1	5	3	9	4	3	1	8	1	0	1	0	1	36

⑤ 児童の出身地別状況(2022年3月1日)

出身地	男	女	計
① 那覇市	4	4	8
② 宜野湾市	3	0	3
③ 石垣市	0	0	0
④ 浦添市	0	0	0
⑤ 名護市	0	0	0
⑥ 糸満市	5	6	11
⑦ 沖縄市	1	0	1
⑧ うるま市	2	3	5
⑨ 南城市	0	0	0
⑩ 豊見城市	1	0	1
⑪ 北中城村	0	0	0
⑫ 西原町	2	2	4
⑬ 久米島	0	3	3
合計	18	18	36

⑥ 児童の入退園状況(2021年4月1日～2022年3月31日)

退園・家庭復帰状況

	入所	退所
男	3	1
女	2	2
計	5	3

	家庭復帰	就職	進学(自立)	措置変更
男	1	0	0	2
女	1	1	0	1
計	2	1	0	3

⑦ 就進学状況

3月に中・高校を卒業して、就職又は進学をした児童は次のとおりである。

	性別	就 職	高校進学	就職進学	訓練校	大学・専門学校 進学	その他	合 計
中学生	男	0	1	0	0	0	0	1
	女	0	2	0	0	0	0	2
訓練校 高校生	男	1	0	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0

⑧ 児童の年度別入退園状況(2022年3月31日現在)

	入 園			退 園		
	男	女	計	男	女	計
1953年度	36	29	65	0	2	2
1954年度	10	12	22	11	14	25
1955年度	8	19	27	13	14	27
1956年度	9	7	16	8	4	12
1957年度	8	14	22	21	15	36
1958年度	25	10	35	3	9	12
1959年度	10	6	16	13	6	19
1960年度	7	3	10	11	5	16
1961年度	20	8	28	15	11	26
1962年度	7	12	19	7	6	13
1963年度	8	8	16	5	1	6
1964年度	2	8	10	3	4	7
1965年度	9	7	16	2	7	9
1966年度	12	11	23	3	4	7
1967年度	11	7	18	15	14	29
1968年度	8	9	17	6	5	11
1969年度	4	8	12	9	12	21
1970年度	11	11	22	18	12	30
1971年度	13	14	27	16	10	26
1972年度	11	10	21	17	11	28
1973年度	10	2	12	5	10	15
1974年度	13	6	19	8	4	12
1975年度	8	13	21	5	1	6
1976年度	9	6	15	18	12	30
1977年度	15	7	22	9	10	19
1978年度	8	12	20	15	16	31
1979年度	10	6	16	11	6	17
1980年度	6	3	9	6	6	12

	入 園			退 園		
	男	女	計	男	女	計
1981年度	19	16	35	12	10	22
1982年度	7	0	7	7	11	18
1983年度	9	17	26	9	9	18
1984年度	8	3	11	8	9	17
1985年度	12	11	23	9	11	20
1986年度	13	6	19	12	6	18
1987年度	10	8	18	8	9	17
1988年度	11	11	22	13	5	18
1989年度	5	8	13	9	10	19
1990年度	13	11	24	10	12	22
1991年度	11	9	20	13	6	19
1992年度	9	12	21	17	15	32
1993年度	12	11	23	9	6	15
1994年度	11	6	17	4	11	15
1995年度	7	4	11	11	5	16
1996年度	6	9	15	7	6	13
1997年度	12	10	22	13	8	21
1998年度	11	7	18	6	9	15
1999年度	9	9	18	10	7	17
2000年度	8	4	12	7	4	11
2001年度	9	7	16	9	4	13
2002年度	5	5	10	4	5	9
2003年度	3	5	8	5	4	9
2004年度	2	1	3	4	12	16
2005年度	5	5	10	13	7	20
2006年度	10	11	21	8	9	17
2007年度	8	10	18	7	6	13
2008年度	6	1	7	12	7	19
2009年度	6	3	9	7	6	13
2010年度	1	1	2	2	3	5
2011年度	0	0	0	6	2	8
2012年度	4	8	12	7	7	14
2013年度	3	1	4	5	7	12
2014年度	7	5	12	3	6	9
2015年度	3	3	6	3	1	4
2016年度	2	3	5	0	0	0
2017年度	0	1	1	2	1	3
2018年度	1	0	1	1	1	2
2019年度	4	0	4	7	2	9
2020年度	0	2	2	3	5	8
2021年度	3	2	5	1	2	3
合 計	593	514	1107	576	497	1073

⑨ 退園状況

	男	女	計
社会復帰	158	116	274
家庭復帰	341	292	633
養子縁組	14	20	34
措置変更	58	60	118
その他	5	9	14
合計	576	497	1073

⑩ 意見箱受付(苦情解決委員会報告)状況

相談内容	延件数(実数)	対応
コロナをなくしてほしい。	1	ホームや集会にてコロナの状況確認を行い、感染予防対策の必要性を確認する。
ホームを移動したい。	11	担当職員や養護課長と話し合う。兄弟、他児との関係性を把握し、本人の要望を確認する。異動の理由などの説明を行う。
ゲーム機がほしい	1	約束事が守られればゲーム機を持つことができることを改めて説明する。
中学生だけ(個人)ルールを決めてインチキだから、自分もルールを決めたい。	1	本人と面談。発達障害を抱える中学生とトラブルがあったようで、職員のやりとりや意図を説明し、理解して協力してくれている。
合計	14	全ケースを苦情解決委員会に報告済

*今年度は、コロナウイルスの影響にて、苦情解決委員会が年に3回の開催となる。あとの月は、書面にて行う。

⑪ 週間及び毎月の行事・会議

	行事・会議
週間	<ul style="list-style-type: none"> ・心理士・ホーム連絡会 ・FSW・ホーム連絡会 ・教会学校
月間	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体会議 ・児童集会 ・全体労作 ・防火避難訓練(夜間想定含む) ・苦情解決委員会 ・管理者連絡会 <ul style="list-style-type: none"> ・養護課会議 ・ホーム会議 ・総務課会議(偶数月) ・聖書勉強会 ・ケース検討会等
毎日	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会及び礼拝(月曜～金曜9:15～)

⑫ 一時保護児の受入状況

	中央児童相談所	コザ児童相談所
男	4	0
女	3	0
合計	7	0

一名は一時保護から措置となる。4名は3月31日現在で一時保護中。

⑬児童の日課

時間	平 日		日曜日等の休日
	幼 児	幼稚園・小学生・中学生以上	
6 : 3 0	起床・洗面		7 : 0 0 起床
7 : 0 0	朝食		
7 : 4 5	登園準備	登 校	8 : 0 0 朝食
8 : 3 0	園内保育園 登 園		9 : 0 0 日曜礼拝
1 1 : 3 0		学 校	部屋の片づけ (10 : 00~11 : 00) (夏休み等は午前 中学習時間)
1 2 : 0 0			
1 3 : 0 0	降 園 お昼寝 余暇時間	幼稚園児下校 (火曜日は弁当)	
1 5 : 0 0	おやつ	下 校	おやつ 宿題・明日の準備 (小学生) 余暇時間
	入 浴 夕 食		
1 8 : 0 0		入 浴	
1 9 : 0 0		夕 食	
2 0 : 0 0	就 寝 (絵本の読み 聞かせ)	余暇時間	
2 1 : 0 0		就 寝	学習時間 (中・高校生)
2 2 : 0 0			就 寝 (消灯)

⑭2021年度中に児童養護のために実施したおもなプログラム

日付(曜日)	園内プログラム	園外プログラム	
4/1 (木)	10:00~11:00全体会議 13:00~15:00ホーム会議		
4/16 (水)	Y姉弟(児相面接)		
4/20 (火)	10:00~12:00養護会議 13:00~15:00ホーム会議		
4/21 (水)	14:00~苦情解決委員会		
5/6 (木)	9:30~養護課会議		
5/19 (水)	14:00~15:00苦情解決委員会		
5/25 (火)	10:00~11:00養護会議 13:00~15:00ホーム会議		
6/3 (木)	10:00~12:00養護会議 13:00~15:00ホーム会議		
6/4 (金)	13:30~16:30施設ケア(中央)	会議	15:00~16:30代表者会議 与那原町役場
6/8 (火)	10:00~12:00自立プログラム会議		
6/9 (水)		会議	15:00~16:30与那原実務者 会議 与那原町役場(前川)
6/15 (火)	13:00~15:00ホーム会議		
6/22 (火)	9:30~12:00養護課会議 施設ケア打ち合わせ 13:30~コザ施設ケア		
6/25 (金)	14:40照正組寄付来園		
7/1 (木)	10:00~11:00養護課会議 13:00~15:00ホーム会議		
7/5 (月)	10:00~12:00自立支援リモート会議 13:00~16:00児童関係暴力"0"へのロードマップ遠藤セミナー (ゆいホール)		
7/13 (火)		連絡会	両児相とFSWとの連絡会
7/14 (水)		連絡会	アフターネットワーク連絡会 (県社協)
7/15 (水)		訪問	9:15 Y宅訪問(金城cw/FSW)
7/19 (月)	10:00~12:00自立リモート会議(島袋)		
7/20 (火)	10:00~12:00養護会議 13:00~15:00ホーム会議		
7/27 (火)	第三者評価子どもアンケート		
7/28 (水)	10:00~12:00自立リモート会議(島袋)		
8/4 (水)	13:30~(小)キャンプ打ち合わせ(雄飛荘)		
8/5 (木)	9:15~10:00全体会議 10:00~12:00養護課会議 13:00~15:00ホーム会議 15:00~18:00リモート会議(養護課)		
8/11 (水)	10:00~11:30自立リモートプログラム(島袋) 園内キャンプ(小)		
8/12 (木)	園内キャンプ(小)	面談	16:30T・E囑託医面談(中児相)
8/17 (火)	10:00~12:00養護課会議 13:00~15:00ホーム会議		

8/18 (水)	14:00~15:00苦情解決委員会		
8/20 (金)	帰省		ウンケー
8/21 (土)	帰省		ナカビ
8/22 (日)	帰省		ワークイ
8/24 (火)	10:00~12:00自立リモート会議(島袋)		
9/2 (木)	9:15~10:00全体会議 10:00~12:00養護課会議 13:00~15:00ホーム会議		
9/3 (金)	午後 モニタリング(心清)		
9/7 (火)	14:00~児童間性暴力研究会		
9/8 (水)	午後 モニタリング(希望)		
9/9 (水)	午後 モニタリング(ともしび)		
9/11 (土)	9:30~14:30第1回自立リモートプログラム		
9/13 (月)	午後 モニタリング(希望)		
9/14 (火)	午後 モニタリング(心清)		
9/15 (水)	14:00~15:00苦情解決委員会 午後 モニタリング(こひつじ)		
9/16 (木)	午後 モニタリング(ともしび)		
9/17 (金)	午後 モニタリング(希望)		
9/18 (土)	ホーム行事(ともしびの家)19日迄		
9/21 (火)	10:00~12:00養護課会議 13:00~15:00ホーム会議	連絡会	14:30 児相・FSW連絡会
9/22 (水)	14:00~15:00苦情解決委員会 午後 モニタリング(心清)		
9/24 (金)	午後 モニタリング(こひつじ)		
9/27 (月)	午後 モニタリング(ともしび)		
9/28 (火)	午後 モニタリング(こひつじ)		
9/29 (水)	午後 モニタリング(心清)		
9/30 (木)	午後 モニタリング(希望)		
10/4 (月)	午後モニタリング(ともしび)		
10/5 (火)	午後モニタリング(こひつじ)		
10/6 (水)	午後モニタリング(心清)		
10/7 (木)	9:30~養護課会議 13:00~ホーム会議		
10/19 (火)	9:30養護課会議 13:30ホーム会議		
10/20 (水)	14:00~16:00個別対応連絡会リモート		
10/26 (火)	10:00~12:00第10回アフターケア会議 14:00~16:00ケース検討会竹下Dr来園		
10/27 (水)	14:00~15:00苦情解決委員会		
10/29 (金)	10:00~12:00第8回自立リモート会議 インフルエンザ予防接種1回目		
11/4 (木)	9:15~10:00全体会議 10:00~11:00養護課会議 11:00~12:00聖書勉強 13:00~15:00ホーム会議		

11/11 (木)	13:30~中央施設ケア1回目		
11/12 (金)	10:00~12:00卒園児体育館借用		
11/18 (木)	13:30~コザ施設ケア1回目		
11/19 (金)	10:00~12:00卒園児体育館借用 15:00 インフルエンザ予防接種(2回目)		
11/23 (火)	14:00~ わらべ歌 沖縄児童文化福祉協会交流会	暦	勤労感謝の日
11/25 (木)	13:00~ スポーツ大会リモート会議		
11/26 (金)	16:00~避難訓練		
12/2 (木)	9:15~10:00全体会議 10:00~11:00養護課会議 11:00~12:00聖書勉強会 13:00~15:00ホーム会議		
12/5 (日)	教会学校(希望荘)		
12/7 (火)	海銀寄付金贈呈		
12/8 (水)	14:00~15:00苦情解決委員会(会議室)		
12/9 (木)	15:00第三者評価事業面談		
12/12 (日)	教会学校(希望荘)		
12/13 (月)	10:00~12:00第10回自立リモート会議 14:00 FCW 玉城さん(里親)来園、児童面談		
12/16 (月)	避難訓練		
12/18 (土)	14:00~クリスマスプレゼント寄贈交流会 マーク・サントスさん		
12/19 (日)	教会学校(希望荘)		
12/20 (月)	クリスマスプレゼント寄贈ヘルプオキ		
12/21 (火)	クリスマスプレゼント寄贈セブンイレブン		
12/24 (金)	17:00~19:00クリスマス祝会		
12/26 (日)	教会学校(希望荘)		
1/6 (木)	9:15~10:00 全体会議 10:00~11:00養護課会議 11:00~12:00 聖書勉強会 13:00~15:00ホーム会議		
1/20 (木)	主任会議		
1/24 (月)	13:00~16:30性虐研修		
1/31 (月)	13:00~16:00性虐研修		
2/1 (火)	13:15モニタリング(ともしび)		
2/2 (水)	13:15モニタリング(希望荘)		
2/3 (木)	9:15~10:00全体会議 10:00~11:00養護課会議(瑞) 11:00~12:00聖書勉強会 13:00~15:00ホーム会議		
2/7 (月)	13:15モニタリング(こひつじの家)		
2/8 (火)	13:15モニタリング(希望荘)		
2/9 (水)	10:00~12:00アフターケアネット会議 モニタリング(こひつじの家) 14:00~15:00苦情解決委員会		
2/10 (木)	13:15モニタリング(心清寮)		
2/14 (月)	13:15モニタリング(心清寮)		
2/15 (金)	10:00~12:00養護課会議 13:00~15:00ホーム会議 15:00モニタリング(希望荘)		
2/16 (水)	13:15モニタリング(希望荘) 14:00~16:00リモート個別対応職員連絡会(島添の丘)		
2/18 (金)	13:15モニタリング(心清寮)		

2/21 (月)	13:15モニタリング(ともしびの家)		
2/22 (火)	10:00~12:00養護課会議(嶺井) 13:00~15:00ホーム会議 14:00~16:00ケース検討会竹下Dr来園		
2/24 木	モニタリング(心清寮)		
2/25 (木)	13:15モニタリング(こひつじの家)		
2/28 (月)	13:15モニタリング(希望荘)		
3/10 (木)	16:30保護士との面談(S.T)		
3/11 (金)	17:00~18:30茶話会(壮行会)		
3/12 (土)	13:00~バレエ公演招待		
3/15 (火)	10:00~12:00養護課会議 13:00~15:00ホーム会議 17:00~児童集会		
3/16 (水)	10:00~12:00資質向上研修 上原秀猛氏SV (IM/Ms)2ケース		
3/17 (木)	13:00叔父来園:S.T卒園(家庭復帰)		

2021年度ワークセンター愛の園事業実績報告

1. 事業概要について

指定障害福祉サービス事業所（多機能型事業所）として、就労継続支援B型事業（定員 34 名）、就労移行支援事業（定員 6 名）、共同生活援助事業（定員 9 名）、相談支援事業のサービス提供を行いました。就労継続支援B型については、男性利用者 1 名、女性利用者 1 名の計 2 名が入所、1 名の女性利用者が退所し 45 名の利用実績となっており、六つの作業班でさまざまな業務内容に応じた訓練・支援を行いました。一方、就労移行支援事業については 6 名の定員に対し利用実績がない状況が続いていますが、新年度は特別支援学校新卒者の利用が見込まれており、今後の利用ニーズの動向を見ながら生活介護事業等への事業展開を含め総合的な検討を行っていく予定です。共同生活援助（定員男子寮 5 名、女子寮 4 名）は満床で推移し順調な運営ができています。また、相談支援事業所「じょいまーる」では、与那原町、西原町、南城市の 3 市町の方々を中心にサービスの提供を行いました。現在、利用契約者数が 93 名に達しており、今後も利用ニーズの高さが予想されるため、相談員の増員や対象地域の拡大、与那原町の一般相談事業の受託等、具体的に準備を進めているところです。

2. 事業所運営について

1) 支援体制について

- ・送迎運転手 1 名を配置し、送迎サービスの利用拡大を図るとともに、新型コロナウイルス感染の緊急事態宣言等発出時にはほぼ全利用者の送迎を行い安全確保に努めました。
- ・共同生活援助事業では、6 月より夜間支援員 2 名を新たに配置し夜間の安全確保及び支援体制の強化を図りました。

2) 作業科目について（就労継続支援B型事業・就労移行支援事業）

- ・公園班（与那原公園除草業務、ゆうゆう公園除草作業、与那原中央病院敷地内除草作業、）
- ・収集分別班（与那原町リサイクル資源物収集及び分別業務）
- ・家政 A 班（手芸品・リサイクル商品の受け取り及び売店での販売、花苗販売、無農薬野菜の販売、下請け作業）
- ・家政 B 班（与那原町 3 公園清掃、下請け作業、室内清掃・消毒）
- ・園芸班（販売及び植栽用花苗・鉢物・貸鉢用プランター作り）
- ・出向班（那覇市公園花壇植栽維持管理業務、沖縄教区霊園管理業務、県議会

庁舎敷地内花壇植栽維持管理業務)

*年間を通して施設外就労訓練や作業訓練を、利用者一人一人の障がい特性や心身の状態、利用者の意向を聞きながら各班に配置し、個々のペースに即した支援に努めました。

3. 利用者に関する事項について

1) 利用者の入退園の状況について

男性利用者 1 名、女性利用者 1 名が入所しました。

女性利用者 1 名が退所しました。

2) 利用者入園期間及び年齢について

入園期間 15 年以上の利用者が 64%を占め、40 歳代以上の割合も 80%になっており、加齢による身体機能や体力低下に対しての細やかな支援や提供プログラム等が課題になっています。

3) 生産活動及び工賃支給状況について

家政班については、手芸品の製造と売店にてリサイクル商品や堆肥・土の販売、農家から季節の無農薬野菜を直接仕入れ販売等を行いました。また、園芸班で育てた花苗も年間を通して販売しています。2021 年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、さまざまなイベント等が相次いで中止となり、就労支援事業収入にも大きな影響がありましたが、利用者一人当たりの月平均支給額、約 26,000 円の例年並みを維持することができました（全国平均は 15,000 円）。

4) 受託業務について

日本キリスト教団沖縄教区の霊園管理業務を始め、公共事業（那覇市公園花壇管理、県議会庁舎内花壇植栽維持管理、与那原町資源ごみ収集分別作業、与那原町内公園 3 ヶ所の除草清掃作業及びトイレ清掃作業）を受託し就労支援収入の大きな柱とすることができました。

5) ミニショップじょいまーるについて

ミニショップじょいまーるはオープンして 16 年目を迎えます。地域の方々との交流の場として、リサイクル商品の引き取り及び販売、家政班で制作した手芸品や花苗の販売、無農薬野菜の販売など、コロナ禍のなか感染対策に努めつつできる範囲での活動に取り組んできました。しかしながら、感染拡大の影響で、その都度売店での販売活動を休止せざるを得なかったり、施設外での販売活動やイベント（役場販売、与那原大綱引き出店、福祉祭り等）が中止されるなど厳しい状況が続いています。今後もコロナ禍における販売活動の工夫や、利用者支援の再構築など、ミニショップじょいまーるの新たな展開に向け企画・検討を進めていきたいと思っております。

4. 職員に関する事項について

1) 退職者 4 名、採用 2 名

2) 県外研修及び県内研修については、新型コロナウイルス感染拡大の影響でほとんどの研修や会議がオンラインでの開催となり、職員の参加が十分にできませんでした。しかし、リモートでの開催に対応するため、年度途中で事業所内の一室にオンライン研修用のネット回線とノートパソコンを設置し、研修等に参加できるよう環境を整備しました。

5. 2021 年度中に実施した主なプログラムについて

2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響でさまざまなイベントや行事等が相次いでキャンセルとなり、活動の自粛を余儀なくされてしまいましたが、感染防止に配慮し参加者の密度をできるだけ避けた方法で開催できるプログラム（女子利用者対象のおしゃれクラブや利用者の余暇活動）や園内行事（レク大会やピクニック、クリスマス祝会、保護者会合同忘年会、新年会等）を実施しました。

6. 共同生活援助事業について

グループホーム「愛さ」は 2014 年 3 月の事業開始から 8 年目となり、「美さ」は 2016 年 10 月の開所から 6 年目を迎えました。利用者一人一人の障がい特性や体調に合わせて、サービス管理責任者及び世話人を中心に、担当職員や家族との連携のもと、基本的な生活習慣の確立や身の回りの整理整頓、洗濯、調理指導など地域の中で自立をめざした支援に取り組んできました。平日は、各事業所で各々の日中活動に取り組み、活動後はグループホームに帰宅。土日祝日は、一時帰省や余暇支援等を利用し外出を楽しんだり、年数を重ねるごとに自由かつ主体的に過ごすことができます。現在、共同生活援助事業は男子棟と女子棟の 2 ホームのみの運営に留まっていますが、喫緊の課題である“利用者の高齢化”や“親なき後の生活”も見据え、グループホームの増設を早急に進めていく必要があります。今後とも利用者及び家族の様々なニーズへの対応をより強化しつつ、地域の中で自立し安定した生活が送れるよう関係機関と連携を図りながら、さらなる事業展開を進めていきたいと思っております。

7. 相談支援事業所「じょいまーる」について

2020 年 2 月に開所した相談支援事業所「じょいまーる」も事業開始から 3 年目を迎えました。与那原町、南城市、西原町の 3 市町の方々を中心に、障害福祉サービス等利用計画の作成及びモニタリングの実施や一般相談等のサービ

ス提供を行ってきました。サービスの利用希望者は日に日に増える一方で、ニーズの高さを改めて実感させられています。現在、93件の利用契約者数に達しており、繁忙期には一時新規の契約を抑えるなど現体制で対応可能な数の調整を行っていますが、相談員2名では今後の新規の受け入れが厳しい状況となってきました。また、那覇市・南風原町・浦添市等への対象地域の拡大や、与那原町より児童の特定一般相談支援事業の委託の打診もあり、次年度に向け相談員の増員等、体制強化を図っていく必要があります。

施設の概要

1 事業の目的

障害者総合支援法にいう指定障害福祉サービス事業における、就労継続支援B型事業及び就労移行支援事業及び共同生活援助事業、相談支援事業の円滑な運営管理を図るとともに、キリスト教的愛の精神で常に利用者の立場に立った適切な支援の提供を目的とする。

2 施設開所年月日

1988年(昭和63年)4月1日

2009年(平成21年)10月1日・・・指定障害福祉サービス事業へ移行

3 設置主体及び経営主体 社会福祉法人基督教児童福祉会 愛隣園

- 4 施設の規模及び構造
- (1) 敷地面積 4,399.50 m²
 - (2) 建物の面積 床面積 746.89 m²
 - (3) 建物の構造 鉄筋コンクリート造2階建

5 事業所の名称及び所在地

指定就労継続支援B型及び指定就労移行支援を行う事業所の名称及び所在地は次のとおりとする。

名称 指定障害福祉サービス事業所 ワークセンター愛の園

所在地 沖縄県島尻郡与那原町字与那原2943番地

指定共同生活援助を行う事業所の名称及び所在地は次のとおりとする。

名称 グループホーム 愛さ

所在地 沖縄県島尻郡島尻郡南風原町字本部434-11

名称 グループホーム 美さ

所在地 沖縄県島尻郡島尻郡与那原町字東浜86-2フォーレストSK101

指定特定相談支援及び指定障害児相談支援を行う事業所の名称及び所在地は次のとおりとする。

名称 相談支援事業所 じょいまーる

所在地 沖縄県島尻郡与那原町字与那原2943番地

6 提供する指定障害サービスの種類、利用定員及び主たる対象者

事業者が本事業において提供する指定障害福祉サービスの種類、利用定員及び主たる対象者は次のとおりとする。

指定障害福祉サービスの種類	利用定員	主たる対象者
就労継続支援B型事業	34名	知的障害者
就労移行支援事業	6名	知的障害者
共同生活援助事業	9名	知的障害者
相談支援事業		知的障害児・者

7 作業科目

【就労継続支援B型】・【就労移行支援】		支援員	利用者
1	公園及び病院敷地内保清作業	公園班	4
2	リサイクル資源収集及び分別作業	収集分別班	19

3	手芸品製作及び常設売店販売担当	家政A班	2	7
4	公園トイレ清掃・下請作業	家政B班	1.5	4
5	販売用苗・鉢物・貸鉢用プランター作り	園芸班	1	6
6	那覇市等花壇植栽維持管理作業	出向班	1	5
計			10.5	45名

8 職員体制

	就労移行支援	就労継続支援B型	共同生活援助	計画相談支援
管理者	1名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)
サービス管理責任者	1名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)	—
生活支援員	1名	1名	—	—
職業指導員	1名	6名(1名兼務)	—	—
就労支援員	1名	—	—	—
目標工賃達成指導員	—	1名	—	—
事務員	—	1名	—	—
世話人	—	—	5名	—
夜間支援員	—	—	2名	—
相談員	—	—	—	2名(1名兼務)
送迎運転手	—	1名	—	—

9.利用者に関する事項

[1]入退園の状況(就労継続支援B型・就労移行)

本年度内における利用者の入退園の状況は下記のとおりである。

	入園	退園
男	1	0
女	1	1
計	2	1

[2]在所期間の状況(就労継続支援B型・就労移行)

2022年3月31日現在

期間 性別	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	合計
男	1	4	0	2	4	17	28
女	1	1	0	0	3	12	17
合計	2	5	0	2	7	29	45
割合	4%	11%	0%	4%	16%	64%	100%

[3]月別皆勤者数【平均 人】%

2022年3月31日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
合計	30	26	28	24	17	21	25	25	33	26	26	22	25
在籍数	44	44	44	44	45	45	45	44	44	44	44	45	44

[4]退園者の状況

2022年3月31日現在

性別	就職	解除	変更	計
男	0	0	0	0
女	0	0	1	1
合計	0	0	1	1

[5]利用者の年齢別状況【平均38歳】

2022年3月31日現在

性別	20才未満	20～29	30～39	40～49	50以上	計
男	0	1	5	11	11	28
女	0	0	3	9	5	17
計	0	1	8	20	16	45
割合	0%	2%	18%	44%	36%	100%

[6]障害種別

(就労継続支援B型・就労移行・共同生活援助)

	知的	精神	身体	計
男	27	1	0	28
女	16	1	0	17
計	43	2	0	45

(相談支援)

	知的	精神	身体	障害児	難病	その他	計
男	13	12	7	19	0	2	53
女	16	13	7	12	1	2	51
計	29	25	14	31	1	4	104

※手帳を2つ持っている方の重複あり

[7]地域別状況

(就労継続支援B型・就労移行・共同生活援助)

	那覇市	浦添市	南城市	西原町	南風原町	与那原町	中城村	計
男	8	3	7	5	2	3	1	29
女	6	2	5	2	1	1	0	17
計	14	5	12	4	3	4	1	46

(相談支援)

	与那原町	南城市	西原町	その他	計
者	26	16	10	4	56
児	21	8	8	0	37
計	47	24	18	4	93

[8]施設外就労訓練

	施設外就労	施設外就労	施設外就労	計
	那覇市与儀 ・天久公園	与那原町 与原公園	与那原町 上の森・ゆう ゆう公園	
男	3	2	2	7
女	2	2	2	6
計	5	4	4	13

[9] 苦情解決相談受付

苦情内容	件数	対応
利用者間のトラブル	4	それぞれの利用者さんの担当支援員から個別に話しを聞いてもらい、トラブルの起こった状況を確認。双方の言い分を整理し、その後の関係改善が図られるよう支援。

[10] 年度別工賃支給状況

(単位:千円)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
生産活動収入	29,493	29,526	30,870	30,261	30,070	29,911	32,908	32,338	32,735	30,194	29,733
工賃支給総額	11,760	13,079	12,344	12,342	12,545	12,609	12,122	12,420	12,746	12,833	13,404
月平均支給額	20	23	22	22	24	26	26	26	26	26	26
平均利用者数	48人	46人	45人	45人	42人	42人	40人	39人	41人	41.9人	42.5人

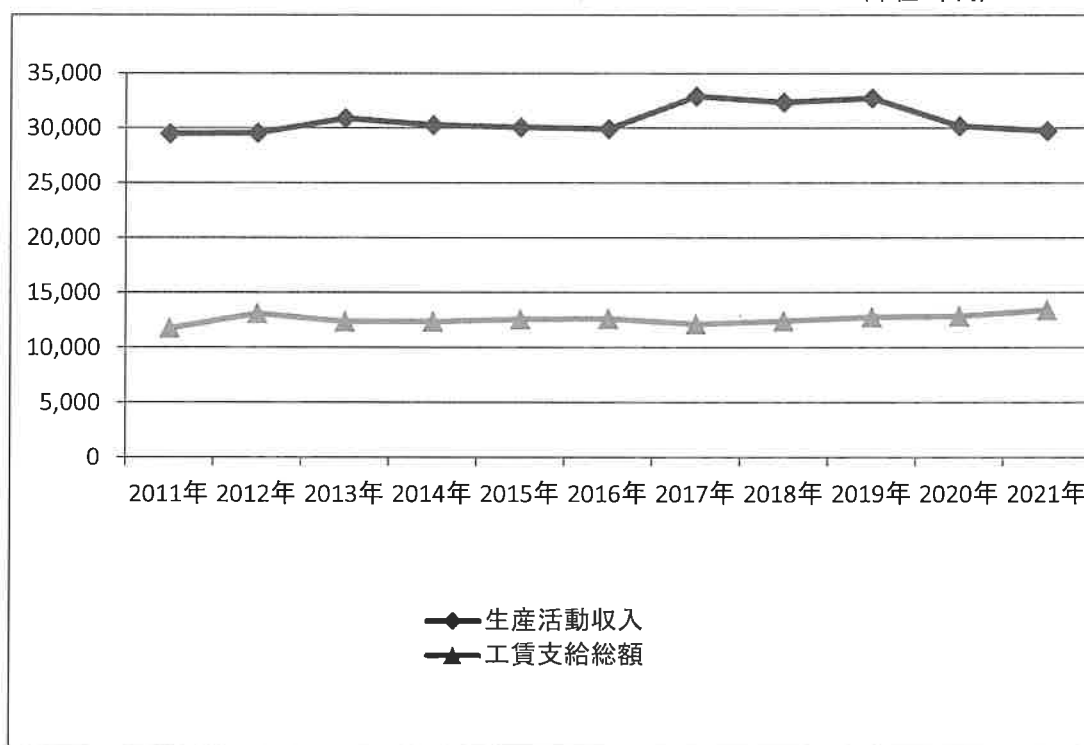
[11] 生産活動収入

(単位:千円)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
園芸・出向	7,940	7,239	6,552	6,282	5,574	4,934	7,008	5,678	6,243	6,066	6,067
公園・公園管理	4,316	4,299	4,419	3,163	3,373	3,731	4,609	5,599	3,743	2,983	2,854
収集分別 家政・売店	17,237	17,988	19,899	20,816	21,123	21,246	21,291	21,061	22,749	21,145	20,812
計	29,493	29,526	30,870	30,261	30,070	29,911	32,908	32,338	32,735	30,194	29,733

※ 生産活動収入 及び 工賃支給総額グラフ

(単位:千円)



[12]受託作業契約事業

2022年3月31日現在

	受託先	作業内容	職員	利用者	開始年月日	継続	
1	日本キリスト教団沖縄教区	霊園及び花壇植栽維持管理作業 〔毎月2回〕	1	5	1988年10月 (S63)	33	年
2	与那原町役場 (まちづくり課)	公園内の草刈・清掃 〔通年〕	1	4	1989年7月 (H1)	32	年
3	与那原町役場 (まちづくり課)	公園内公衆トイレ清掃作業〔週3回〕	1	4	1991年8月 (H3)	30	年
4	琉球銀行中部支店9店舗	貸鉢プランター 〔2カ月に1度〕	1	6	1993年4月 (H5)	29	年
5	那覇市役所 (公園管理課)	与儀公園他2ヶ所 花壇花卉植栽維持管理作業〔通年〕	1	5	1993年7月 (H5)	28	年
6	与那原中央病院	病院周辺の除草・清掃作業〔週1回〕	1	4	1993年10月 (H5)	28	年
7	与那原町役場 (生活環境安全課)	町内リサイクル資源収集分別作業〔通年〕	4	19	1997年4月 (H9)	25	年
8	沖縄県	県議会庁舎敷地内花壇植栽維持管理 〔入札〕	1	5	2020年6月 (R2)	2	年

[13]下請作業

	業者名	作業内容		開始年月日	継続	
1	新垣瓦店(与那原町)	瓦コースターシール貼り、商品箱詰め		2006年 (H18)	15	年
2	三倉食品(西原町)	レトルトパック箱詰め、シール貼り		2016年4月 (H28)	5	年

[14]売店

	販 売 物	
1	じょいまーる(常設売店)	無農薬野菜、ドリンク類、古着、手芸品、食器等

10. 職員に関する事項

退職 職業指導員 職員3名 パート職員 1名
 採用 職業指導員 職員2名 パート職員 3名

〔県外研修〕

実施日	研修会名	場所	参加者	備考

〔県内研修〕

	実施日	研修会名	場所	参加者	備考
1	4月13日	与那原町相談支援部会	与那原町	職員2名	
2	7月13日	与那原町相談支援部会	与那原町	職員2名	
3	8月6日	ニーズや能力を発揮できる支援について	那覇市	職員1名	
4	8月10日	与那原町相談支援部会	オンライン	職員2名	
5	9月14日	与那原町相談支援部会	オンライン	職員2名	
6	9月30日	福祉サービスに関する苦情解決セミナー	オンライン	職員1名	
7	10月12日	与那原町相談支援部会	与那原町	職員1名	
8	10月28日	令和3年度第1回与那原町自立支援協議会	与那原町	職員3名	
9	11月8日	与那原町相談支援部会	与那原町	職員2名	
10	11月26日	罪に問われた高齢・障害者の地域生活移行セミナー	オンライン	職員1名	
11	12月14日	与那原町相談支援部会	与那原町	職員1名	
12	12月15日	与那原町就労支援部会	与那原町	職員1名	
13	1月7日	令和3年度サービス管理責任者更新研修	オンライン	職員1名	
14	1月11日	与那原町相談支援部会	オンライン	職員1名	
15	2月1日	安全運転管理者講習	浦添市	職員1名	
16	2月8日	与那原町相談支援部会	オンライン	職員1名	
17	3月3日	令和3年度第2回与那原町自立支援協議会	与那原町	職員2名	
18	3月8日	与那原町相談支援部会	与那原町	職員1名	
19	3月16日	与那原町就労支援部会	与那原町	職員1名	
20	3月29日	令和3年度権利擁護推進セミナーみんなで知ろう成年後見制度	オンライン	職員1名	
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					

○ 年間プログラム

4月	
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	避難訓練
10月	ピクニック
11月	健康診断
12月	クリスマス祝会 愛の園・保護者会合同忘年会
1月	新年会
2月	
3月	内科検診 避難訓練 激励感謝会

○ 月間プログラム

曜日	内容	担当
第1営業日	体重測定・グループホーム連絡会	利用者 サビ管・世話人
第1木曜日	聖書勉強会	利用者・職員
第2水曜日	職員会議	職員
第3金曜日	企画会議	管理者・主任
第4金曜日	支援会議	職員
奇数月第3土曜日	園内行事等	利用者・職員
奇数月第3土曜日	保護者会	管理者・保護者

○ 日課プログラム

8:30	～	出勤・着替・職員ミーティング
8:40	～	朝会
8:50	～	作業開始
12:00	～	昼食・休憩
13:00	～	午後の作業
15:00	～	休憩
15:15	～	道具の後片づけ
15:30	～	作業終了・送迎サービス(第1グループ出発)
16:00	～	退勤・送迎サービス(第2グループ出発)
17:00	～	グループホーム美さ送迎